

はくぶつかんの部屋 20

宜野湾人の顔



私たちの宜野湾市立博物館では、常設展示室の「宜野湾人の顔」の展示替えを行いました。

「宜野湾人の顔」は過去から現在までの宜野湾の人々の顔のつくりを比べてみようという内容になっており、今年度は我如古区の皆様の顔となっております。ご協力をいただいた我如古区の皆様に心よりお礼を申し上げます。

さて、日本人の祖先の顔のタイプには2種類のタイプがあるのはご存知でしょうか。二重まぶたで、顔のホリが深く、耳垢が湿っている人は「縄文人系」、一方は一重まぶたで、ホリが浅く、耳垢が乾いている人は「弥生人系」であるといわれています。ただし現代人は混血が進んでおり、これらの特徴が混在しています。みなさんは、どうでしょうか。

ところで、このような特徴と、関わりがありそうな謎が、宇真志喜の安座間原第一遺跡から発見されています。この遺跡は二〇〇〇～二五〇〇年前の人々の墓地ではないかとされる遺跡で、分かっているだけで58体分の人骨が出

土しています。この骨を分析してみると、大半は「縄文人系」の特徴をもつ「南島基層タイプ」の人々でしたが、一人の人骨は「弥生人系」の特徴をもち、北部九州と山口県にいた弥生人とよく似ていました。

さらに、確認されたお墓の向きを見てみると、明確な理由は不明ですが大半の「南島基層タイプ」の人々は東向きに頭をむけて埋葬されています。ところが一方では、「弥生人系」の人は北向きに埋葬されており、なんと方向が違います！

博物館では、この安座間原第一遺跡の様子が分かる模型や、復元した安座間原人の顔も展示しています。ぜひ現代に生きる皆様の顔と比較してみてください。昔の人々の顔に思いを、はせてみませんか。ご来館お待ちしております。



↑縄文人系(左) 弥生人系(右)の安座間原人の復顔



↑宜野湾人の顔のコーナー

【お問合せ】市立博物館 ☎8700-9317
入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館下さい。

茶ぐわーゆんたく

122

慰霊の日〜戦争の記憶〜

沖縄戦の終結から69年が経ち、今年も「慰霊の日」が近づいてきました。宜野湾市は沖縄戦において、日本軍と米軍の最初の激戦があった嘉数高地の戦いに住民が巻き込まれ、宜野湾市全体で、3900人以上が犠牲になりました。中でも大山・我如古・嘉数地区は、他の地区に比べて多くの犠牲者がでました。そこで今回は、戦争の記憶を忘れないために、住民被災について我如古を取り上げていきます。

我如古では、嘉数高地での日米攻防戦のとき日本軍の陣地が多かったため、嘉数地区と同様に多くの住民が犠牲になったと言われています。米軍が上陸すると我如古住民は、集落内にとどまってチンガーガマなどの避難壕に避難する人と、南部へ避難する人がいました。戦場が南下するうちに集落内で捕虜になった住民は野嵩などに収容され、戦後の生活が始まりました。一方で南部では激しい戦闘が行われ、6月末には南部に追い詰められた日本軍が崩壊し、沖縄戦は終了しました。最終的に、我如古の戦争での死者・行方

不明者は400人以上となりました。我如古では、1989(平成元)年に沖縄戦で犠牲になった住民を祀った「我如古慰霊之塔」を我如古公民館の隣に建立しました。そして年に一度、「慰霊の日」の前後に慰霊祭が行われています。(今年6月29日(日)に行われます)宜野湾市内には我如古を含め15字に慰霊塔があり、それぞれの地区でも慰霊祭が行われています。

今では戦争体験者が高齢になり、戦争体験を語り継ぐことが難しくなってきました。戦争の悲惨さを訴え、いかに後世に残していくのかを考えなければなりません。みなさんもこの機会に地元での慰霊祭へ行ってみたいかがでしょうか。



▲我如古慰霊之塔

「宜野湾市史」への問合せ
文化課 市史編集係(市立博物館内)
☎8700-9317